【 17 】

氏　　名	山本（やまもと）　浩仁郎（こうじろう）
学位の種類	博　士（医学）
学位記番号	第４６０号
認定課程名	防衛医科大学校医学教育部医学研究科
学位授与年月日	平成２６年２月１３日
論文題目	腎疾患の病態を判断する手段としての尿沈渣細胞測定の意義
審査担当専門委員	（主査）東京大学教授　本間之夫
	浜松医科大学教授　椙村春彦
	大学評価・学位授与機構　教授　中原一彦

審査の結果の要旨

腎疾患の確定診断は腎生検で行われ，特に糸球体腎炎の活動性および腎予後の予測には欠くことができない。しかしながら，腎生検は重篤な合併症を発生しうる検査である。病状を尿沈渣中の細胞検査から非侵襲的に評価できれば望ましく，より低侵襲な検査が望まれている。

この研究は尿沈渣中に出現する尿路系由来の細胞をクローディン 1，CD68，好中球エラスターゼに対する抗体を用いて免疫染色し，主に半月体形成との相関関係を検討した。また，尿沈渣から RT-PCR 法でクローディン１　mRNA，CD68 mRNA，M1/M2 マクロファージに発現する遺伝子の mRNA を解析して，同じく半月体形成との相関関係を調べたものである。

検討の結果，クローディン１陽性細胞は，尿蛋白や尿中赤血球と関連を示していた。クローディン１と CD68 の mRNA レベルは半月体形成のある症例で高値となった。また，M1 マクロファージと関連する諸因子とは関連はないが，M2 マクロファージが半月体の形成された症例では高値を示すことも明らかとなった。更に，これらの変化は，治療経過を反映していた。

以前より尿沈渣を調べることにより非侵襲的に糸球体腎炎の活動性を評価しようとする試みはあるが，本研究では特にクローディン１の発現率が半月体形成率と相関することを示していて興味深いデータである。これらの成果は，尿沈渣中の細胞を用いて，クローディン 1, CD68 を解析し, 腎生検の代用を可能とする検査であることを示唆するものである。今後，この成果が臨床的に応用されれば，より低侵襲な検査で，腎疾患の診断や経過観察が可能となろう。

よって，本論文の学術的価値は高く博士（医学）として合格と判断した。